

---

光

岡谷

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

光

### 【コード】

N0679G

### 【作者名】

岡谷

### 【あらすじ】

もし僕が死んだら誰か悲しんでくれるだろうか？……僕はその答えを知りたくなり自らを殺した。

もし僕が死んだら誰か悲しんでくれるだろうか？

もし僕が死んだら誰か泣いてくれるだろうか？

もし僕が死んだら誰か僕のことを毎日思い出してくれるだろうか？

もし僕が死んだら世界は変わるだろうか？

そんなことばかりを考えていた僕はとうとうその答えを知りたくなり自らを殺した。

しかし、僕が死んでも誰も悲しまなかった。誰も涙を流さなかった。誰も僕の事を思い出してくれなかった。

もちろん世界は変わらなかった。せめてお母さんとお父さんぐらい泣いてくれたって良いのに。

きつともう皆、僕のことなんて忘れている。まるで僕なんか最初から存在しなかったかのように。

僕は人生で一度だって輝いた瞬間がなかった。

僕は何のために生きてきたのだろうか。何のために生きていたのだろうか。

僕は死んで良かった。

『……では、死んでから輝けばいいじゃないか』

死んでからなんて無理に決まっている。もう僕の体は、命は無いんだ。あるのは真つ暗な暗闇のみ。

『……その暗闇の中で輝けばいい。何事も輝くには闇が必要さ』

輝けるはずがない。輝けるはずがないんだ。

『……星になるのさ。夜空に輝く星に』

僕が、星になる？

『……そうだ。星は皆、死んだものの魂。死んだものは皆、自分のことを忘れ去られることを恐れている。だから星となり輝き、地上にいるものに自分の存在を思い出させようとしているのさ』

僕も輝けるの？

『……ああ。だが夜空も無限の広さではない。夜空に輝ける星の数にも限りがあるんだ』

もう満員なんだね。やはり僕は輝けない。

『……でも大丈夫さ。実は私も夜空の星の一つだ。しかし、私はもう十分輝いた。だから代わりにあなたが星になり輝きなさい』

あなたはどうするの？

『……私は、最後に燃え尽きるのさ』

そうですね。

『あなたは思い切り輝きなさい。他のどの星よりも輝きなさい』

わかりました。ありがとうございます。

『……それでは』

生きているときには輝けなかった僕。でも死んでから輝くことができる。まるで死ぬために生れてきたようだ。まあ、それでもいい。輝けるのなら。

しかし、僕はいつたい誰に向けて輝けばいいのだろうか？

闇の中、星が一つ流れた。

(完)

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0679g/>

---

光

2011年2月3日03時09分発行